



「地域で一番高い」警備会社  
業務拡大の背景

## 社員第一主義。 警備業界のイメージを変えるために



代表取締役  
田村 健 Tamura Takeshi  
〒017-0825  
大館市字一心院南4番地5  
TEL.0186-59-5280  
<https://ohu-a-keibi.com>  
◎設立/2017年  
◎資本金/300万円  
◎従業員数/75名(取材時)  
◎業務内容/警備業

大館市に本社を構える「奥羽エース警備株式会社」は、工事現場などでの警備、誘導を主事業としており、創業からわずか5年で、秋田県、岩手県に合わせて5つの営業所を持つ企業へと成長している。

今年11月には本社屋を新設、今年度の「あきた起業家交流フェスタ2022」では先輩起業家として表彰されるなど、目覚ましい活躍を見せる同社。「きつい」「人材不足」というイメージを持たれがちな警備業界において、どのようなアプローチをしてきたのか、代表の田村健氏に伺う。

### 「地域で一番高い」警備会社

今、警備業界は深刻な人手不足といわれており、警備員が足りないことから工事ができず、落札しても手放さざるを得ない状況の企業もあるといわれるほどだ。

そんななか、「うちは、『地域で一番料金の高い』警備会社と

うたっています」と、田村氏。契約料を高くできれば、そのぶん社員の賃金を引き上げることができる。すると、社員数が増え、結果、現場に充てられる人員も確保できるようになる、というロジックだ。

実際、契約料金は他社よりも2割程度高いものの、この仕組みにより人員確保ができるようになった上に、現場でより力を発揮しやすい30代、40代の人材も多く得られたことが、業務拡大に繋がっているといえる。

### 社員第一主義

契約料を上げることは、同社が掲げる「社員第一主義」の考えにも通じる。「社員の給料が上がれば、やる気が上がり、現場で自然にいい仕事ができるようになり、それがお客様に伝われば『多少料金が高くても依頼したい』となっていくと考えています」と、田村氏。

休日出勤の手当や資格試験のサポートなども手厚く行っており、社員からは「働きやすい」「やればやるほど結果がついてくる」という声も聞かれる。

### 「きつい」イメージからの脱却

警備員というのは、日々、多くの人からの目が向けられる立場でもある。その誘導のわかりやすさはもちろんだが、警備員の表情、姿勢から苦しさが見えないようにすることも、業務全体のイメージに繋がる。

それでも、毎日約8時間にわたる屋外業務。夏は暑く、冬は寒い現場の負荷は免れないが、冬はマイナス20度にも耐える防寒着、夏はファンを装着できるジャケットの導入など、



現在、社員数は75名。  
秋田県は大館、鹿角、能代、岩手県は大船渡、水沢の計5箇所に営業所を構える。



地域貢献にも力を入れており、大館市内の小学校の登校誘導や夕方の地域の見回りなどをボランティアで行っている。



少しでも快適に業務ができるよう努めている。

また、11月に新設した社屋は、敢えてアットホームな雰囲気を持たせたり、HPやSNS、YouTubeなどで自社の業務や社員の様子を発信しながら、「警備会社＝きつい」というイメージからの脱却に余念がない。

「自分がこうと定めた道を、同じ方向に向かって進んでくれる社員たちには本当に感謝しています。福利厚生、職場環境などさらに充実させられるよう努めていきます」と意気込みを見せている。